

## 令和5年度 学校評価報告書（目標設定・実施結果）

|   | 視点                  | 4年間の目標<br>(令和2年度策定)   | 1年間の目標  | 取組の内容   |  | 校内評価 |          | 学校関係者評価<br>(月 日実施) | 総合評価（月 日実施） |       |
|---|---------------------|---|---|---|--|------|----------|--------------------|-------------|-------|
|   |                     |   |   | 具体的な方策  | 評価の観点  | 達成状況 | 課題・改善方策等 |                    | 成果と課題       | 改善方策等 |
| 1 | 教育課程<br>学習指導        | ①新しい時代を築く『人間力』を学力の側面から育成する教科指導を展開する。<br>②「総合的な探究の時間」の研究開発等をとおして、次代に求められる資質を常に見極め、人材の育成につなげる教育活動を推進する。 | ①生徒に身に付けさせたい学力及び適正な評価の研究をさらに進め明確にするとともに、新学習指導要領の円滑な運用に向け、引き続き、教育課程の研究を推進する。<br>②教科内での議論の深化と、教科横断的な学びの研究を進める。  | ①・本校生徒に必要な学習内容を精選し、生徒に身に付けさせたい学力を意識した教科指導を展開する。<br>・ICT端末を利用した授業を研究し、適切に評価をすることができたか<br>・学校目標を達成するための教育活動の計画が策定できたか。<br>②・目標に沿った適切な課題設定ができたか。<br>・「情報収集・分析」、「課題の分析・考察」を行う学習ができたか。<br>・課題解決の提案を通して、生徒間で相互評価する力を育成できたか。 | ①・年間指導計画を適切に見直し、実践することができたか。<br>・ICT端末を利用した授業を研究し、適切に評価をすることができたか<br>・学校目標を達成するための教育活動の計画が策定できたか。<br>②・目標に沿った適切な課題設定ができたか。<br>・「情報収集・分析」、「課題の分析・考察」を行う学習ができたか。<br>・課題解決の提案を通して、生徒間で相互評価する力を育成できたか。 |      |          |                    |             |       |
| 2 | (幼児・児童・)<br>生徒指導・支援 | ①新しい時代を築く『人間力』を人格形成の側面から育成する教科外指導を展開する。<br>②一人ひとりが豊かな人生を切り拓くために、それぞれの『生き方』や人としての在り方を学ぶ教育活動を推進する。      | ①コロナ禍で制約のあった学校行事を活気に満ち溢れたものにし、よりよくするための方法を再検討し、充実した学習機会を提供する。<br>②・人としての在り方や生き方を考えさせる指導を通して、自他を尊重し、人として備えるべき資質を身に付けさせる。<br>・引き続き、教育相談体制の充実を図り、実践を重ねる。 | ①生徒会本部や委員会等の生徒が中心となり、生徒一人ひとりが輝ける行事の在り方を検討し、協力して実行できる学びの機会とする。<br>②・遅刻指導等日常の指導を通して、道徳観や規範意識を高揚させる。<br>・人権研修等を通じ、自尊感情を育み、多様性を認める意識を醸成する。<br>・面談や生活状況調査を通して、生徒の困り感に組織的に対応する。   | ①生徒主体の生徒会行事を企画・運営することができたか。<br>②・遅刻指導対象者数を減らすことができたか。<br>・道徳観や規範意識を高めることができたか。<br>・面談及び生活状況調査を適切に実施し、組織的に対応できたか。   |      |          |                    |             |       |

|   | 視点           | 4年間の目標<br>(令和2年度策定)  | 1年間の目標   | 取組の内容   |   | 校内評価 |          | 学校関係者評価<br>(月 日実施) | 総合評価(月 日実施) |       |
|---|--------------|--|--|---|---|------|----------|--------------------|-------------|-------|
|   |              |  |  | 具体的な方策  | 評価の観点   | 達成状況 | 課題・改善方策等 |                    | 成果と課題       | 改善方策等 |
| 3 | 進路指導・支援      | <p>①主体的に自分の将来像を描き出し、『社会的役割』を果たそうとする姿勢の確立を支援する。</p> <p>②一人ひとりの進路実現を支え切る指導と支援の体制構築と効果的な実践を図る。</p> <p>③「総合的な探究の時間」の研究開発等をとおして、次代に求められる資質を常に見極め、人材の育成につなげる教育活動を推進する。</p> | <p>①望ましい職業観や勤労観を土台としたキャリア形成を支援する方策の構築をいっそう推進する。</p> <p>②各教科との連携により、進路指導の観点から求められる学習指導の在り方を引き続き追求する。</p> <p>③教科内での議論の深化と、教科横断的な学びの研究を推進する。</p>      | <p>①社会の一員として働くことの意義に気付かせ、カリキュラム・マネジメントの観点から、本校の育てたい人物像として求められる人間力を養うプログラムを見直し、再策定する。</p> <p>②進路実現に向け、入試対応や学力の定着に向けて、必要な学習内容を研究し、各教科での実践につなげる。</p> <p>③「総合的な探究の時間」を中心に、各教科において、課題発見力を研究し、育成する。</p> | <p>①本校の育てたい人物に求められる人間力を養うプログラムを策定することができたか。</p> <p>②生徒の理解度や習熟度を課題、模擬試験などで把握し、個別対応ができたか。</p> <p>③・目標に沿って適切な課題設定ができたか。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「情報収集・分析」、「課題の分析・考察」をする学習ができたか。</li> <li>・課題解決の提案を通して、生徒間で相互評価する力を育成できたか。</li> </ul> |      |          |                    |             |       |
| 4 | 地域等との協働      | <p>①社会の一員としての資質や意識の向上を目指して、多様な人たちとの係わりの中から『生き方』を学ぶ機会を拡充する。</p> <p>②学校が「地域もつとも善良なる隣人」であるために、様々な活動や実践に取り組む。</p>  | <p>①成年年齢引き下げを踏まえ、学校や地域等との連携・協働をさらに推進し、教育活動の充実を図る。</p> <p>②地域等との更なる工夫ある連携・協働の方法等を引き続き検討し、これらの推進を図る。</p>   | <p>①②目標達成のため、地域等との新たな連携・協働の在り方や方法を模索し、連携可能な事業等を拡充し、教育活動の充実を図る。</p>  | <p>①社会人としての資質や意識の向上を視野に入れた『生き方』を学ぶ機会の拡充ができたか。</p> <p>②地域等との新たな連携・協働の在り方や方法を模索し、実践できたか。</p>  |      |          |                    |             |       |
| 5 | 学校管理<br>学校運営 | <p>①すべての人が学び活躍して、成長を続けられる学校づくりを推進する。</p> <p>②将来にわたって、社会的な役割と責任を果たすことができる「持続可能な学校」づくりに取り組む。</p>   | <p>①学校運営のさまざまな場面を通し、これから神奈川の教育を主体的に担うことができる人材の育成を目指す。</p> <p>②生徒と対面し関わる時間をより多く確保するとともに、教職員の心身の健康維持・増進、ワークライフバランス実現のために、学校運営の方法や働き方の改善・改革を推進する。</p> | <p>①不祥事防止研修をはじめ、各種研修を通じ、知識習得やディスカッションを行うことで個々の資質向上を図る。</p> <p>②超過勤務の是正を目指し、各教職員が業務の精選や見直し、意識改革を行う。また、意識的・積極的に定期時退庁を心掛け、週に1回以上実践する。</p>  | <p>①個々の資質向上につながる研修を設定し、知識習得やディスカッションを行うことができたか。</p> <p>②・各教職員が業務の精選、見直しを通して意識改革を行い、超過勤務を是正することができたか。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・定期時退庁を積極的に実践できたか。</li> </ul>   |      |          |                    |             |       |

